

石川県立美術館だより

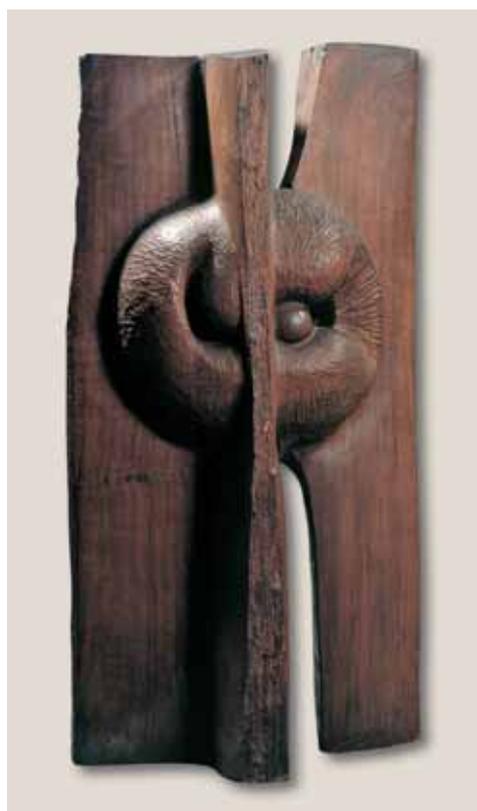
平成18年12月1日発行 第278号

特別陳列

北陸の肖像画



七尾市指定文化財 瑩山紹瑾頂相



人とトラロク 高橋 清

特集

石川の木彫

- 彫る・削る・みがく -

11月16日(木)～12月23日(土・祝) 会期中無休

目次

北陸の肖像画、名物裂と香道具……………	2
石川の木彫、TOPIC石川義展……………	3
コレクション展示室 主な展示作品……………	4
展覧会回顧 (百々俊雅の世界)……………	5
各地の展覧会……………	5

企画展示室……………	6
貸し出し中の所蔵作品……………	6
現地見学報告、12月の行事案内……………	7
所蔵品紹介……………	8
ミュージアムショップ通信……………	8

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>

今月のコレクション展示室 (第2展示室) 特別陳列 北陸の肖像画

11月16日(木)～12月23日(土・祝)



廣山恕陽頂相 (高岡市・瑞龍寺蔵)

引き続き開催中の「北陸の肖像画」から、今回は展示構成の一つである「頂相」作品について紹介します。頂相(「ちんそう」または「ちんそう」とよむ)は、禅僧の肖像画を指す言葉で、画像とともに彫像にも用いられています。

禅宗においては、法は人から伝わるという思想のもと、師と弟子の法系が重んじられます。衣鉢を継ぐという言葉が示すように、中国において、宋代頃から法嗣の証拠として師は、自分の肖像画を描かせ自賛して伝法印可の一つとして、弟子に与えることが行われるようになり、鎌倉時代以降、中国から積極的に禅宗を採り入れたわが国においても、その習を受け継ぎ行われるようになりました。

また頂相は、掛真といって師の頂相を、師の忌日などに掛け供養することにも用いられ、禅宗寺院には歴代住職の頂相をはじめ、先達・祖師像などが収蔵されるようになりました。

頂相の様式は、大きくは全身像か半身像であるかに分かれ、全身像では、法被を掛けた曲袷(法式に用いる僧の椅子)に、衲衣に袈裟を着けた像主が座り、手には警策か扠子(ほす)を執るもの。半身像は師の上半身を描くもので、両手を組んでいるものが多くみえます。ほかに円内に半身像を描く円相像や、経を唱え歩く姿を写した経行像もみえます。

初期の頂相は宋画の影響の下、細い墨線で面貌を入念に描き、写実的な描写と厳しい個性の表現を試みたものが多く描かれましたが、やがてわが国の民族性に

あつた感性性のこもつた作風が見られるようになりました。

展示では、石川県及び福井富山県の禅宗寺院に伝わる代表的な頂相を展示するものです。本展開催に係りご協力賜りました各位に、厚く御礼申し上げます。

先月号では名物裂の概要や、初公開の「蜀江錦」を中心に紹介しましたので、今回は、「金襴」「緞子」の展示作品を中心に紹介します。

「金襴」とは、金糸を織り入れて文様を織りだしたもので、その豪華な趣から、名物裂のなかでも最も尊ばれ、最高位に位置付けられています。中国では織金と呼ばれ、ほぼ宋代に織り始められたと考えられています。「興福寺金襴」は興福寺の戸張に使用されていたという伝承を持つ裂で、極古渡り(宋時代)といわれ、格別に珍重されてきたものです。小石畳文を地文として織りだし、その上に金糸あるいは銀糸で宝珠文を表した気品と風格のある裂です。「大鶏頭金襴」も金襴を代表する裂です。作土形(草花や動物文に、土坡とともに単一文様とする)の植物を互の目に配した文様で、名称は表された植物が鶏頭とみなされていたためです。

「緞子」とは、経糸と緯糸に異なる色糸を用いて文様を織りだしたもので、金襴とは対照的に、やわらかな風合いと落ち着いた趣が尊ばれました。「本能寺裂緞子」は、濃紺地に二重の青海波を地文として、捻り唐花と宝尽しを薄紺の経糸で織りだし、紺の濃淡で文様を表した落ち着きのある裂です。「伊予簾緞子」は、「古瀬戸尻膨茶入 銘伊予簾」の仕覆に用いられたところからこの名があります。茶・藍・緑系の濃淡の縦縞に浅葱と薄黄の横段を織り分け、文様は浅葱地に梅鉢紋と雷文を、薄黄地には小石畳を地文として丁子・分銅・七宝などの宝尽文を繊細に織り表しており、洗練された美しさがあります。

「問道」とは、縞・格子・段などのバリエーションで模様を表した織物です。江戸時代の「粋」の美意識に与えた影響は多大です。

なお、茶の湯に関する名物裂は、次回の「茶道具と名物裂」に展示します。

今月のコレクション展示室 (前田育徳会展示室)

特集 名物裂と香道具

11月16日(木)～12月23日(土・祝)



WOMAN21 内平俊浩

今月のコレクション展示室 (第4展示室)

特集 石川の木彫

-彫る・削る・みがく-

11月16日(木)~12月23日(土・祝) 会期中無休

樹齡何百年という大樹を前にして、人智を超えた何ものかに思いをはせた方は多いでしょうし、また、庭木や盆栽を愛でて心を和ます方も多いことでしょう。時には霊的な存在として祈りや畏れの対象ともなれば、馴染み深い家屋や家具など実用物を提供する材料でもあり続ける木は、聖俗両様の奥深い存在です。こうした木を素材として作品を造る木彫家はどのような思いで木に相対しノミを振るうのでしょうか。日本人が古来から木に抱く思い、祈りを込めて刻まれた数多の仏像、そびえ立つ高峰の登攀は容易ではないはず。本特集では明治から現在まで二十名の作家による木彫作品をご覧いただきます。前号では概要を述べましたので、今回は活躍中の二人の作家、梶本良衛と内平俊浩をご紹介します。

梶本良衛は昭和二十六年能美市寺井の生まれ。金沢美術工芸大学彫刻科を四十八年に卒業し、一年研究科に学びました。四十九年より新制作協会展に出品を続け、現在同协会会员。また石川の前衛作家が集う日本海造型会議にも精力的に出品を続けています。荒々しいノミ跡を生かした人型の木の形が独特です。『木から発して木に帰る。木は創作の原点である。』とは梶本の言葉です。

内平俊浩は昭和三十五年柳田の生まれ。五十七年に名古屋芸術大学美術学部彫刻科を卒業し、主に個展とグループ展を発表の場としています。ザックリとした粗彫りの人体の集合が、現代の世相を語ります。今回のWOMAN21シリーズはコギャルと呼べそうな少女達が思い思いの姿で、聞き耳を立てたりおしゃべりしたりしています。少女達の組み合わせは自由で、しかもどんどん増幅していきそうな気配です。ファンキーな世界をお楽しみください。



梶本良衛

連載 第2回 - 日本の自然・風景画を描く -

郷土が生んだ
日本画家

石川 義展

1月4日~2月4日

今回開催する石川義展では、石川氏の初期から最近作まで、日本画60点・写生4点の計64点を、当館第7・8・9展示室に展示する予定で、準備を進めています。

展示の構成は、以下に示すとおり3部で構成し、氏の芸術の特徴を浮かび上げさせ、その魅力に迫りたいと考えています。

第1部 深遠なる自然美の世界

石川氏の中心的なモチーフとなっているのは、豊かなわが国の自然であり、さまざまな風景の諸相をとらえ、表現しています。とりわけ山や森、海や池、滝など雄大な光景を、深い観照の眼差しと巧みな技術によって、力強く、また幻想的に描写し、存在感のある画面を生み出しています。

第1部では、初期から最近の制作に至る、日展出品作を中心に展示し、その深遠な自然美の世界をご覧いただきます。

第2部 杉の輪廻

これまで、わが国の自然美を追究してこられた石川氏のモチーフの中で、とくに愛着を抱いて描いてきたのが「杉」でした。

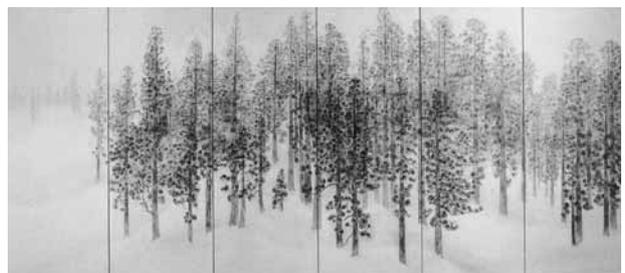
第2部では、平成6年に「杉の輪廻 石川義展」と題し

て開催された個展での出品作を中心に展示し、氏の「杉」に寄せる熱い思い感じ取っていただきたいと思いをします。

第3部 生きものたちの饗宴

石川氏の描く作品の中には、大自然の中に生息する、さまざまな生きものの姿を見出すことができます。それらは鳥や魚、動物、あるいは蛙などであり、自然と一体となって生きる姿が、氏の温かいまなざしによってとらえられています。

第3部では、氏が中心となって結成した日本画の研究グループ「玄」展での出品作を中心に展示し、氏の画業のもう一つの側面をご紹介します。



雪韻(秋田杉(左隻)) 石川義

今月のコレクション展示室 主な展示作品

11月16日(木)～12月23日(土・祝)

= 国宝 = 重要文化財 = 重要美術品
= 石川県指定文化財 = 市町村指定文化財



街角に秋 前田さなみ

前田育徳会展示室

特集 名物裂と香道具

- 興福寺金襴
- 清水裂
- 蜀江錦
- 黒塗菊折枝蒔絵十種香箱
- 黒塗秋草蒔絵香割道具

第1展示室

- 色絵雉香炉
- 色絵雌雉香炉

野々村仁清
野々村仁清

第2展示室

【古九谷】

- 色絵鳳凰図平鉢
- 青手樹木図平鉢

特別陳列 北陸の肖像画

- 瑩山紹瑾頂相
- 廣山恕陽頂相
- 春庸宗恕頂相

七尾市 東嶺寺
高岡市 瑞龍寺

第3展示室

【油彩】

- 1982年 私
- アンティークの部屋
- パラダイス
- ロッシユ展望
- 街角に秋

鴨居 玲
円地信二
清水鍊徳
田辺栄次郎
前田さなみ

- 【版画】
- 海山十題

東山魁夷

第4展示室

特集 石川の木彫

「彫る・削る・みがく」

- WOMAN 21シリーズより
- 人とトラロック
- 音色
- コンボジション
- 日本武尊

内平俊浩
梶本良衛
高橋 清
田中太郎
長谷川大治郎
松井乘運

第5展示室

- 【陶磁】
- 金襴手愛鳥譜飾盤
- 【漆工】
- 肉合研出宇豆良水指
- 【染織】
- 友禅訪問着「蒼林の譜」
- 【金工】
- 月に雨
- 【截金】
- 截金彩色飾盆「浮舟」

北出塔次郎

佐治賢使

水野 博

関 源司

西出大三

第6展示室

- 【日本画】
- チーター
- 秋景溪流図
- 拾牛図
- 像
- 玄映

上田珪草
越塚友邦
橋本関雪
富山錦成
曲子光男

観覧料

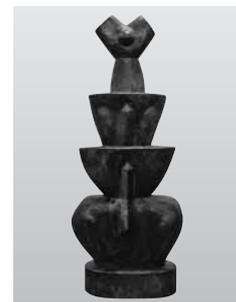
一般 350円	個人	一般 280円	団体(20名以上)
大学生 280円	人	大学生 220円	
高校生以下は 無料		高校生以下は 無料	



秋景溪流図 越塚友邦



月に雨 関 源司



コンボジション 長谷川大治郎

展覧会回顧

—日本画家— 百々俊雅の世界

去る8月24日から9月24日までの一ヶ月間、当館第4展示室において、日本画家で金沢美術工芸大学名誉教授の百々俊雅先生の展覧会を開催しました。出品作品は、日本画27点、写生8点の計35点で、昭和46年の日展初入選作から、昨年の日展出品作まで、氏の画業の変遷をたどり、その美を享受する絶好の機会になったことと思われ

ます。
氏の作品のモチーフは、これまで一貫して現代の女性が中心であり、さまざまなファッションで表された表現には、色彩の輝きと華やかさが満ちあふれていました。その作風は、どちらかというとな北陸の暗いイメージとはかけ離れたものなのですが、それは氏が、大阪という大都会で生まれ育ち生活していた少年期の記憶が、心のどこかに感覚として残り、都会的な明るさをともなって画面の上に現れてきたのではないかと想像してみるのが、うがちすぎた見方でしょうか。

ともあれ、氏の作品にはさまざまな色彩が大胆に使

れ、その作品群の中に身を置くと、森林浴ではない色彩浴に浸っているような印象を受けました。その豊かな色彩の発光源となっているのが、日本画の顔料であり表現法であって、あらためて日本画の表現の魅力を感じさせられた展覧会であったのではないかとと思われるのです。

また、氏ご自身も、これまで描いてきた作品を一室に展示したことによって、自分自身勉強になり、これからの制作に活かせるというお話しをいただき、担当者として嬉しく思った次第です。

最後に、本展開催にあたり、ご協力いただきました百々先生をはじめ関係の方々、また会期中、ご多忙の中、ご鑑賞いただきました多くの方々に、あらためてお礼申し上げます。



ミュージアムレポート

キッズ☆プログラム 鑑賞講座 百々俊雅の世界を鑑賞しよう 9月2日(土)



鑑賞する展覧会「百々俊雅の世界」が日本画ということで、まず「日本画とはなにか」「どんな絵の具や材料を使っているのか」など、基本から知っていくことにしました。材料体験では岩絵具や「箔」を使ってみることにしました。岩絵具もさることながら、初めて見る銀箔に子ども

達は興味津々！扱いにくい箔に四苦八苦しながらも、初めての箔張り体験に「難しいけどきれい！」と感動の様子でした。

展示室に足を入れると、百々氏の鮮やかな色彩に感嘆の声が。おもに色の使い方や装飾性などを中心に鑑賞のポイントを話し、家族の情愛の表現や制作のエピソードなどもあわせて紹介しました。「ここに箔がつかってあるよ」「優しい感じが伝わってくる」など参加した親子の皆さんは思い思いに百々氏の世界を堪能したようでした。



各地の展覧会

開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせください。

◆美術と遊ぼうーアートの迷宮

1月21日(日)まで
富山県立近代美術館 【076-421-7111】

◆大エルミタージュ美術館展

12月24日(日)まで
東京都美術館 【03-3823-6921】

◆大阪人が築いた美の殿堂

12月24日(日)まで
大阪市立美術館 【06-6771-4874】

◆巴里憧憬

エコール・ド・パリと日本の画家たち
12月24日(日)まで
名古屋市美術館 【052-212-0001】

◆現代漆芸作家ー輪島の今

1月28日まで
石川県輪島漆芸美術館 【0768-22-9788】

企画展示室

第91回公募写真展 研展

12月7日(木)～12月12日(火)(第8・9展示室)

東京写真研究会が主催する研展は、研究会(関東、中部、関西・北陸)の4支部の会員と、一般公募の2部門で構成され、会員作品119点、公募作品232点が展示されます。北陸から会員の部では、文部科学大臣賞に、小山 瀨、研展賞に矢尾正巳、研展奨励賞に杉野時男、公募の部では、東研大賞に蔵明雄、共同通信社事業本部フォトセンター長賞に佐藤外茂雄、日本カメラ社賞に冨田晃子、東研賞に法邑一男、東研奨励賞に辻 靖郎、米島光栄の各氏が受賞しました。

◇入場無料

◇連絡先

金沢市野町4-9-13 内島一郎
☎ 076-241-2279

第30回記念日創展&新院展選抜金沢展

12月16日(土)～12月17日(日)(第7～9展示室)

日創展は会長丹羽俊夫(新院展副会長)の大作、理事長三宅厚史、事務局長今村文男の力作をはじめ、石川、富山、福井、岩手から幅広い年齢層の日本画約60点を、新院展(東京展)から会長石井宝山の作品をはじめ約40点を選抜して展示します。

◇主な出品者

北出朝之、保科 誠、柴田輝枝、南 好乃、中村勝代、
松尾功一朗、福井淳一、村中博文、伊藤夏子、牛丸美代子、
大窪昭子

◇入場無料

◇連絡先

金沢市窪1-223 丹羽俊夫
☎ 076-244-5916

ふれてみるいしかわの文化展

12月7日(木)～12月11日(月)(第7展示室)

石川県では障害を持つ方々を含め、広く県民の皆様が、あらゆる分野の社会活動にも積極的に参加できるバリアフリー社会(障壁のない社会)づくりを、積極的に推進しています。その一環として、どなたでも文化芸術に親しめる展覧会を、障害者週間(12月3～9日)期間中に、5日間にわたって開催します。じかに手で触れて鑑賞できる彫刻(北陸日彫会会員作品約20点)や伝統工芸関係資料に加え、泉鏡花の作品にちなんだ朗読劇公演も予定しています。

◇入場無料(展覧会・朗読劇公演とも)

◇関連行事

鏡花劇場出前公演 朗読劇「滝の白糸」

日 時 12月10日(日) 午前11:00～(約1時間)

出 演 鏡花劇場(高輪真知子・女優)

会 場 美術館ホール

◇連絡先

金沢市鞍月1-1 石川県県民文化局文化振興課
☎ 076-225-1372

ただいま貸し出し中

現在貸し出し中の当館所蔵品は以下のとおりです。
いつもと違う空間、違う展覧会で出会う当館の所蔵品。
いつもと違う視点で鑑賞できるのではないのでしょうか。

◆古染付張甲牛香合

展覧会名:「茶の湯の香合 - 茶人の好みと手捏ね -」
会 期: 10月14日～12月3日
会 場: 京都市 茶道資料館

◆友禅赤茶地鶏落葉文訪問着「暁声」 上野為二

◆高雅縮緬地友禅訪問着「越前花野」 羽田登喜男

◆鏝銅象嵌六方花器 金森映井智

◆脇指 銘傘笠正峯作之 平成七年二月日 隅谷正峯

◆截金彩色木彫合子「華鳥」 西出大三

展覧会名:「日本のわざと美展
- 重要無形文化財とそれを支える人々 -」

会 期: 11月25日～12月24日

会 場: 千葉市 千葉県立美術館

◆色絵牡丹文平鉢 古九谷

展覧会名:「青山次郎の眼」
会 期: 9月1日～12月17日
会 場: 滋賀県信楽町 MIHO MUSEUM

◆沈黒緑陰箱「能登有情」 山岸一男

展覧会名:「現代漆芸作家 - 輪島の今 -」
会 期: 11月20日～1月28日
会 場: 輪島市 輪島漆芸美術館

◆祥瑞山水文沢瀉形茶碗

◆刷毛目茶碗

◆小井戸茶碗 銘 玉兎

◆熊川茶碗 銘 沢辺

◆伊羅保片身替茶碗

◆黄伊羅保茶碗 銘 女郎花(寄託品)

◆赤楽茶碗 銘 僧正(寄託品)

展覧会名:「加賀伝来の名碗」

会 期: 11月3日～12月10日

会 場: 金沢市立中村記念美術館

第36回 文化財現地見学旅行報告

～長野ゆかりの美術家をたずねて～

36回目を迎える今回の文化財現地見学は、ほぼ10年ぶりに長野県へ行きました。近年は寺社関係の見学が続いたため、近代の美術家にスポットを当てた美術館巡りとなりました。以前からアンケートで長野への希望者が多かったこともあり、45名の定員に対して2倍もの人数の応募がありました。

移動距離が長いので、美術館の出発時間が午前6時30分、金沢駅の出発時間が午前7時でしたが、みなさん時間通りにお集まりいただき、他の団体旅行バスがひしめく金沢駅西口をほぼ定刻に出発しました。すばらしい快晴で、道中はスムーズに進み、予定通りに長野県信濃美術館・東山魁夷館に到着。

「川端康成の眼力」が開催中で、多少混み合っていました。学芸員の方に丁寧な解説をしていただき、川端康成のまなざしを通した美の世界を堪能しました。併設されている東山魁夷館で、静謐な作品の数々を自由に鑑賞した後、善光寺にほど近い昼食場所へ。早めに食事を済ませて善光寺へお参りされた方も何人いらっしゃいました。

午後はまず、近代日本画を系統立てて収集している水野美術館。4年前に開館した美術館で、ゆったりとスペースをとり、近代の巨匠の作品が「風景画 秋から冬へ」という企画展で展示されていました。学芸員の方の説明を受けて、展示室をぐるりとまわると、それぞれ描かれた場所へ旅行しているような気分になりました。

そして1日目最後の見学先が、池田満寿夫美術館です。代表作の版画を中心に、氏の様々な活動をたどる展示となっており、バラエティに富んだ作品群を楽しむことが出来ました。その後、宿泊場所である長野駅近くのホテルに入りました。

2日目もよく晴れわたった天気でした。まずは長野市郊外にある清水寺です。気さくなご住職の軽妙なお話を聴きながら、重要文化財の仏像をじっくりと拝観しました。バスが入れない道歩く途中に、りんご畑が広がっており、のどかな雰囲気を楽しむ方も多かったようです。

それから、高速道路で安曇野市へ向かい、安曇野市の象徴とも言われる、美しい建築物の碌山美術館を鑑賞しました。ツタに覆われた礼拝堂のような展示室の中に、日本近代彫刻の先駆者の一人である、萩原守衛の素晴らしい作品群が並んでいます。建築物・作品・展示室内などすべてが、彼の生きた時代を彷彿とさせる雰囲気に包まれた、印象的な美術館でした。

最後は安曇野ちひろ美術館です。いわさきちひろの作品だけにとどまらず、絵本を中心とした魅力的な企画展を精力的に行っており、今回は韓国の絵本作家の展覧会が行われていました。企画展と常設の特集の両方でそれぞれ、学芸員の方からの説明があり、充実した展示を観ることに加えて、よく手入れされた花壇や美しい風景など、見どころがたくさんありました。ちひろ美術館の鑑賞を終えて帰路につき、ほぼ時間通りに金沢駅西口着。続いて美術館に到着し、参加者の方々は無事に帰られました。

天候に恵まれたことは何よりでしたが、大きな事故もなく、無事に終了したことは、参加者の皆様のご理解とご協力があったからこそでした。移動時間が長いので、それぞれの鑑賞時間が短かく、あわただしかったなど、反省点はたくさんありました。これからの反省を踏まえて、次回に生かし、よりよい活動を行っていききたいと思います。



清水寺にて

12月の行事案内 《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月 日	行 事	内 容	会 場
12/ 2 (土)	キッズ 鑑賞講座	石川の木彫を鑑賞しよう (前多武志主任主事)	講義室
12/ 3 (日)	月例映画会	ロダン美術館散策Ⅰ 職人の手がつかむ永遠のとき (23分) 衣装人形 - 堀柳女 - (25分)	ホール
12/ 9 (土)	美術講座	奈良の古寺 (谷口 出普及課長)	講義室
12/10(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物25 天平の調べⅠ (33分) 正倉院宝物26 天平の調べⅡ (31分)	ホール
	朗読劇	鏡花劇場出前公演 朗読劇「滝の白糸」 (午前11時より約1時間)	ホール
12/17(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物26 天平の調べⅡ (31分) 正倉院宝物27 天平の技を伝える (34分)	ホール

12月の全館休館日は24日(日)～31日(日)です。

桧造りで一部彩色された像は、古代神話の日本武尊の伝承にもとづき制作され、顔や衣には仏像をみるような柔和さがたどい芸術的にも優れた作品といえます。乗運66歳の作です。当初、明治記念之標「日本武尊」銅像の原型として制作されましたが一部有力者の反対で採用されませんでした。しかし在世中よりすでに仏師として高名で、その刀法は精緻巧妙を極め、神技ともいわれました。

明治記念之標「日本武尊」銅像（兼六園内建立）は、西南の役で戦死した郷土軍人の霊を祀り、記念するため、明治13年（1880）に建立されました。屋外にたっている人物銅像としては日本最古の銅像です。

乗運は文化12年（1815）金沢野田寺町に牧野良永の2男として生まれました。家は代々仏師を生業としていました。幼名を小太郎、のちに義市、平喜と改めました。14歳の時、京都の大仏師片岡友輔について刀法を学び、24歳の時帰郷しました。18歳の頃松井家を継ぎ、乗運又は北蘭堂と号しています。明治13年（1880）には京都大谷本願寺阿弥陀堂の建築彫刻にも従事しています。余技として鐔の製作を試み、その作に「乗運斎輝朝」と銘し、又和歌には「斎」の号を用いています。同20年6月（1887）京都で73歳で歿しました。



やまとたけるのみこと
日本武尊（木彫）

まつ い しょう うん
松井乗運 文化12年～明治20年(1815~1887)
明治13年(1880)
高23.2 幅13.0 奥行9.5(cm)

ミュージアムショップ通信

兼六園の雪つりも見事に仕上がってきました。世の中も冬支度が整ってきたようですね。県立美術館も今年の開館日は12月23日（土・祝）までとなっています。北陸の肖像画、名物裂と香道具、石川の木彫などの展覧会も今年いっぱいです。お見逃しのないように願いたく思います。

さて、ショップからは新商品「浮世絵 絵はがき」のご紹介です。一昨年、久世氏より寄贈していただいた浮世絵コレクションより、4枚の作品を選んで絵はがきにいたしました。歌川広重の名所江戸百景より「上野山内月のまつ」「堀切の花菖蒲」、同じく東海道五拾三次より「蒲原」「庄野」の計4種類です。どれも人気の高い浮世絵ですが、色や紙質にもこだわり、満足いただけるものになったと思います。大事な方への年賀状に使うのも風情がありますね。



左から上野山内月の松、堀切の花菖蒲、蒲原、庄野（各50円）

次回の展覧会

- 企画展** 郷土が生んだ 日本画家 **石川義展** ただし (第7～9展示室)
- 特集** **茶道具と名物列** (前田育徳会展示室)
- 特集** **―新春を寿ぐ―古美術優品展** (第2展示室)
- 特集** **万国博覧会の時代―明治の工芸―** (第5展示室)
- 特集** **石川ゆかりの京都の日本画家たちⅡ** (第6展示室)

1月4日(木)～2月4日(日)

休館日：12月24日(日)～1月3日(水)

石川県立美術館だより 第278号

2006年12月1日発行

〒920-0963 金沢市羽町2番1号

TEL 076(231)7580 FAX 076(224)9550

URL <http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/>